

教育福祉常任委員会視察研修報告 11/14、15

わかさ 鳥取県若桜町立若桜学園・兵庫 県姫路市役所(市立白鷺小中一貫校について) はくろ

本町の教育行政に活かすことを目的に、小中一貫校の取り組みについて規模の違う学校を視察し、その経緯と成果について学びました。

若桜町小中一貫校「若桜学園」^{わかさ}

若桜町は、奥出雲町の約半分の面積に約3,300人が暮らす町です。児童数の減少等の問題や「心を育てる」という課題から、教育委員会が主導して小中一貫校の取り組みが進められ、地区別の説明会等を開催。「子どもの将来のために大人の責任としてどういう環境で育てたいのか」というスタンスで理解を得、小学校2校を統合し、小中学校併設の9年間の一貫教育を実現させたそうです。

「9年間を通した確かな学びの創造」、「課題解決に主体的に取り組む児童・生徒の育成」を教育研究テーマとし、1年生から4年生までを前期、5年生から7年生を中期、8、9年生を後期に分ける等、新たな取り組みが進められていました。



姫路市立白鷺小中一貫校^{はくろ}

姫路市は1市4町が合併し、面積は奥出雲町の約1.5倍、人口約53万5千人です。白鷺小中一貫校の取り組みは、中一ギャップの問題から、学力と総合的な人間力のアップを目指して導入されました。「小中共通の教育目標」「9年間を見通し一貫した指導」「教職員による協働実現」という3つの目標を掲げ、現行の教育制度の中で最大限の教育を目指すと言われていました。

両校に共通するのは9年間で3つのブロック分け、確かな学力と生きる力をつけさせる教育、教師の意識改革、子どもたちにも中一ギャップの解消や主体性の向上などいい影響が出ていることです。

本町においても将来のある子どもたちのために、行政、教育委員会、地域が一体となってより良い教育環境を作り出すことが大人の責任だと強く感じました。

兵庫県西宮市情報支援センター

体験に伴う災害発生時の危機管理と情報システムの構築を学びました。

市職員時代に阪神大震災を経験し自らも被災され、その経験を生かした危機管理と情報システムの構築をされた、センター長の吉田穂さんより説明を受けました。

「いざというときに動けない自治体はいけない。被災者となった住民の保護と支援を速やかに実施しなければならない。」と訴えられ、そのために被災者に関する各種の情報を迅速に収集・整理し、関係者間で共有していく仕組み作りが不可欠とのことでした。最も有効なのがマイナンバー制度で、人口が少なければすぐに作成でき、緊急時に迅速に対応できるとのことです。



また、防災の仕事は外部に頼らず行政職員が行うことで、コスト削減と迅速な対応の両面でメリットがあることを、体験を通して話されました。大変学ぶことが多くぜひとも本町に活かしたいと思います。